

『平家物語』から生成 AI まで —国語科と図書館が創る「多角的な視点」を育む探究授業—

1. 研究背景と目的

高度に情報化した現代社会において、私たちは膨大な情報に瞬時にアクセスできる利便性を手にした。その一方で、ネット上の断片的な情報や生成 AI の出力結果に安易に頼ったり、フィルターバブルやエコーチェンバーによって視野が狭くなったり、といった危うさにも直面している。本授業実践の目的は、多様な資料や価値観に触れることによって、多角的な視点から物事を捉える力を養うことにある。網羅的な情報を提示する図書や、信頼性の高い情報源である新聞といった従来型のメディアと、最新技術の生成 AI。生身の人間同士による対話や、実体験を通じた身体的な学び。これらを重層的に組み合わせることで、多角的な視点を育み、探究的な学びを深めていくことをめざした。

※公益財団法人図書館振興財団 2025 年度振興助成を受けて実施

2. 実践報告

4 月【1 年 新入生プログラム】および【2 年 総合的な探究の時間 オリエンテーション】
メディアリテラシー ワークショップ開催（株式会社 Classroom Adventure 提供「レイのブログ」(※1)）
特定のメディアに依存しない意識が向上（実施前：79.8% → 実施後：87.5%）

学習効果を定着させるための継続的な取り組みを、国語科授業で実施。

【1年 現代の国語】

年度当初に学校図書館やその蔵書に触れさせるため、図書館スカベンジャーハントや「おためし読書(※2)」を実施。その後、前期の授業では、各自が選んだ新書 1 冊をクラス内でプレゼンする「新書レポート」発表会や、各自が選んだ新聞記事についてクラスメイトと意見交流しながら考察する授業（「一緒に読もう！新聞コンクール(※3)」に参加）を実施。各単元に関する生徒のふりかえりは、次のとおりである。

1冊の新書が世界を広げる：高校生たちの発見レポート

視野の広がり
未知のジャンルへの興味が湧いた
普段は手に取らない分野の本にも面白さを感じ、読んでみたいという意欲につながった。

多様な視点との出会い
同じ本でも人によって着眼点や考察が違い、物事を多角的に見るきっかけになった。

本を通じた自己との対話
自身の課題解決のヒントを発見
多くの生徒が、自分の悩みや欠点を改善するための本を意図的に選んでいた。

「本は自分を強くするもの」
他者の考えを自分の力に変える
誰かの考えを深く理解し、自分の考えとして消化でき、この価値を発見した。

「本は自分を強くするもの」
本は読解力だけでなく、自分自身を内面的に成長させる力があると気づいた。

© NotebookLM

新聞で広がる！高校生が見つけた「新しい視点」：事後アンケートから見た気づき

高校国語科の授業で紙の新聞に触れた高校生が、デジタルメディアとの違いを詳細に感じ、情報の多様性、信頼性、思考力の深化に関する新たな発見を得た。

デジタル (SNS/ネット)
フィルタリングからの脱却
自分だけでなく、興味のない分野や社会情勢にも自然と触れられた。

新聞 (紙媒体)
紙面構成による「一目」での理解
見出しや写真、図表の工夫により、社会の動きを瞬時に把握できた。

メディアとしての「信頼」と「思考の深化」
ネット情報を上回る「信頼性」
取材に基づく確かな情報とプロの記者の視点、強い安心感を得た。

情報の選別
アルゴリズムによる選別
多様な視点や多様なジャンルを網羅

読み方
スクロールによる飛ばし読み
じっくり読み
文脈を捉える
じっくり読み

信頼感
取材や信頼による高い信頼性

「変動」から「能動」の読解へ
スクロールせずじっくり読むことで、多角的に深く考える習慣が身についた。

自分の意見を持つ力の育成
多様な視点を知ることで、自分自身の考えをまとめる重要性に気づいた。

© NotebookLM

【2年 古典探究】

多様な資料や視点から物事を捉えることの意義を実感できるよう、文学を多角的に探究する授業を実施。歴史物語『平家物語』『壇ノ浦』章段を題材とし、図書館蔵書を活用して、歴史書『吾妻鏡』・異本『源平盛衰記』との比べ読みをした。また、琵琶弾き語り「耳なし芳一」(※5)鑑賞、俊寛にまつわる狂言「柑子」(狂言 古語美による)鑑賞、『平家物語』研究者による特別授業等を通じて、『平家物語』を多角的に鑑賞した。生徒のふりかえりは、次のとおりである。

多角的に鑑賞する『平家物語』：古典から学ぶ現代の教訓

物語と歴史の見方が変わる
「事実」は一つではない
同じ出来事でも、立場や資料によって描かれ方が全く異なる。

物語は意図をもって「作られる」
作者の立場や観念、隠された意図を捉えるための演出が加えられている。

表現方法で深まる理解
文字だけでなく、音や舞台を通すことで物語は立体的になる。

多角的な視点の重要性
ニュースや人間関係も、一面的な見方では本質を見逃す可能性がある。

盛者必衰の理：永遠なものはない
どんな栄華も力もいつかは衰えるという無常観から、今を生きる大切さを学ぶ。

時代を超える人間への共感
登場人物の運命や感情を通して、変わらない人間の本性を理解できる。

© NotebookLM

先の授業では、新書や新聞記事を通じて、生徒が様々な社会課題に興味関心を広げることができた。この学びを深めるため、後期の授業では、電子版新聞を活用して「附高生が知っておくべきニュース」を選定し、それについて小論文を書く授業を実施。執筆の際には、生成 AI 利用を可とした（生徒自身が生成 AI を使う事前準備として、「Gemini パスポート(※4)」を用いた演習、言語学者による生成 AI 活用に関する特別授業を実施）。約52%の生徒が生成 AI を利用し、特に多かった利用方法は、表記校正、論理構成のアイデア出し、言い換え表現提案の順であった。その後、クラス内でピアレビューを行ったところ、生成 AI が提供する論理的・形式的なアドバイスとは異なり、自身の経験に基づく具体例を高く評価する声が多く、同じ生活環境に身を置く附高生ゆえの批判や共感的なアドバイスがなされた。生徒は生成 AI とクラスメイトからのアドバイスを統合して、推敲過程へ移行した。

3. 今後の展望

本実践を通じたメディア横断的・重層的な学びにより、生徒には自身の視野を相対化し、多角的に物事を捉える姿勢が定着しつつある。生成 AI が知的生産のあり方を変容させる現代だからこそ、溢れる情報から価値を見極め、実体験や対話から得た知見と結びつけて自分なりの解釈を構築する力が不可欠である。多様な情報を有機的につなぎ、確かな言葉で表現できる力を養う授業デザインを、今後も探究していきたい。

4. 参考資料

- ※1 Classroom Adventure 「レイのブログ」 <https://www.classroom-adventure.com/ja/rays-blog-jpn>
- ※2 清教学園中高 学校図書館リブラリア <https://libraria.seikyo.ed.jp/>
- ※3 NIE 「いっしょに読もう！新聞コンクール・NIE 月間」 <https://nie.jp/month/>
- ※4 Google 「小中学生のための Gemini パスポート」 https://services.google.com/fh/files/misc/gemini_passport_for_students.pdf
- ※5 野島洋美 「琵琶弾き語り『耳なし芳一』より」 <https://www.youtube.com/watch?v=6HxAPR09lug>